

Sickkids での研究留学

Peter Gilgan Centre For Research and Learning
The Hospital for Sick Children

鈴木 啓道
(トロント小児病院)

私はこの度、上原記念生命科学財団の海外留学助成金によりカナダトロントにあるトロント小児病院に海外留学する機会を得ることができました。トロント小児病院は世界でも有数の小児病院で臨床・研究ともに盛んです。

私が所属した Michael Taylor 研究室は小児脳腫瘍の研究を行っています。研究室の PI は、著名な脳神経外科医である Michael Taylor 教授です。Taylor 教授は髄芽腫の 4 分類を提唱した人物であり、小児脳腫瘍の研究を牽引しています。Taylor 研究室では、私が日本で行ってきた研究と同様に、次世代シーケンサーを用いたゲノム解析を行いました。

カナダにおける研究環境ですが、様々な実験設備や実験技術に関しては日本とそれほど大きな差はないと感じております。カナダで使えるシーケンサーや行っている研究手法は、日本でも同様に行われているものがほとんどでした。一方で、研究施設の充実度や研究費、検体の量はかなりの差を感じます。トロントはトロント大学やオンタリオ州を代表する病院が市中心部に集中して存在し、多くの研究専用棟が中心部に集積しております。私の所属する Peter Gilgan Centre for Research and Learning もその一つであり、21階建ての建物すべてが医学研究に使用されています。各種のセミナーや講習会も充実しており、毎週のように世界中の著名な研究者や最新の話題に対する講演を聞くことができます。研究費も非常に豊富であり、日本で行っていたサンプル数の数倍から数十倍の解析を行うことが可能でした。患者検体も少数の施設に集めているためか、数千にも及ぶ脳腫瘍検体があり、研究資源が非常に豊かである印象を受けました。

留学初期は研究を軌道にのせることが大変で、様々な講習を受けたり施設のルールに慣れたり、なかなか時間がかかりました。研究内容が日本で行っていた研究と類似しているとは言え、実際に本格的に研究を開始するには半年近くかかってしまいました。また、ポストドクで留学すると、ほぼ一人前として扱われるため、自分で研究を遂行していく能力が必要だと感じました。

ボスの Taylor 教授はとても温和であり、お酒が大好きですのでよく飲み連れて行ってもらえました。特に、施設外の著名な研究者が講演にくると、研究室から数名連れてトロント

トの夜の街に出ていき、3時4時まで飲みに行くことも多かったです。日本と一緒に食事やお酒を一緒にすると、講演の場で聞けなかったことまでいろいろ聞けるので非常にいい機会を得ることができます。

トロントの生活ですが、寒い印象があるかもしれませんが、その分寒さ対策が十分にされており、地下通路も発達しており、街中であれば冬季はほとんど外に出ずに移動できます。トロントは北米における大都市の一つですので必要なものは何でも買えますし、アジア製品も値段は高いですが購入することが可能です。北米4大スポーツのうち、野球・バスケット・アイスホッケーのチームがあるのでスポーツが好きな人は楽しめると思います。

大変なこともありましたが、それよりも楽しいこと学んだものははるかに大きいかと思えます。私は今後も医学研究に尽力していきたいと考えており、今回の経験を今後に活かしていきたいと考えております。

最後になりますが、このような貴重な機会を与えてくださいました上原記念生命科学財団の関係者皆様に、この場を借りて感謝申し上げます。

(2019. 5. 7受領)